

青森県経済統計報告

令和5年2月1日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和5年1月1日現在）…………… 1

県人口	1,200,464人（対前月1,566人減少）
自然動態	1,534人減少（出生者数470人、死亡者数2,004人）
社会動態	32人減少（転入者数1,074人、転出者数1,106人）

2 本県の経済動向（令和4年11月・12月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和5年1月期）をみると、前期から低下し、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和4年11月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年=100）は、季節調整済指数が95.7で、前月比2.4%の低下となり、2カ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は100.9で、前年同月比9.9%の低下となり、7カ月連続で前年同月を下回った。 …… 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和4年11月の**定期給与**は228,364円で前年同月比0.7%増となった。 …… 3
・**総実労働時間**は147.8時間で前年同月比2.1%減、**所定外労働時間**は9.1時間で前年同月比3.5%減となった。
・令和4年12月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.22倍となり、21カ月連続で1倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和4年12月の**青森市消費者物価指数**（令和2年=100）は、総合指数が105.0となり、前月比0.5%の上昇、前年同月比4.3%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.2となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比3.5%の上昇となった。 …… 5
- (2-4) 個人消費 ・令和4年12月の**百貨店・スーパー販売額**は、191億円で全店舗ベースが前年同月比1.8%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.9%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。 …… 6
・令和4年12月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は2,531台で、前年同月比2.7%減となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。
・令和4年12月の主な観光施設の**観光入込客数**は、55万9千人で前年同月比12.8%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、17万1千人で前年同月比0.2%減となり、9カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 ・令和4年12月の**新設住宅着工戸数**は386戸で、前年同月比10.9%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。 …… 8
・令和4年12月の**公共工事請負金額**は95億9,300万円で前年同月比118.4%増となり、7カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和4年12月の**企業倒産**は、件数は6件で前年同月比200.0%増となった。負債総額は7億2,300万円で前年同月比507.6%増となった。 …… 8

（3）景気動向指数C I（令和4年11月分）…………… 9

先行指数	112.2（前月を8.5ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
一致指数	79.1（前月を3.4ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した）
遅行指数	93.3（前月を1.8ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和5年1月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I ……48.3(前期比4.5ポイント低下、3期ぶりに50を下回る)
3カ月後の景気の先行き判断D I …… 50.0(現状判断D I と比べ1.7ポイント上昇)

1 青森県の推計人口(令和5年1月1日現在)

【概況】

現在の本県推計人口は、1,200,464人で、対前月1,566人の減少となった。

○自然動態

出生者数が470人、死亡者数が2,004人で、1,534人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,074人、転出者数が1,106人で、32人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月 増減率	増減数	自然 増減数	自然動態		社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2.10.1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
4.1.1	1,217,988	574,116	643,872	-0.101%	-1,231	-1,163	473	1,636	-68	996	1,064
4.2.1	1,216,386	573,399	642,987	-0.132%	-1,602	-1,367	530	1,897	-235	898	1,133
4.3.1	1,214,864	572,686	642,178	-0.125%	-1,522	-1,148	473	1,621	-374	839	1,213
4.4.1	1,209,012	569,766	639,246	-0.482%	-5,852	-1,252	525	1,777	-4,600	3,346	7,946
4.5.1	1,208,675	569,850	638,825	-0.028%	-337	-1,047	470	1,517	710	3,229	2,519
4.6.1	1,207,975	569,445	638,530	-0.058%	-700	-1,133	532	1,665	433	1,662	1,229
4.7.1	1,207,127	569,009	638,118	-0.070%	-848	-946	476	1,422	98	1,375	1,277
4.8.1	1,206,193	568,608	637,585	-0.077%	-934	-987	480	1,467	53	1,724	1,671
4.9.1	1,205,356	568,367	636,989	-0.069%	-837	-1,100	557	1,657	263	1,883	1,620
4.10.1	1,204,343	567,893	636,450	-0.084%	-1,013	-1,082	519	1,601	69	1,448	1,379
4.11.1	1,203,253	567,491	635,762	-0.091%	-1,090	-1,207	501	1,708	117	1,329	1,212
4.12.1	1,202,030	566,913	635,117	-0.102%	-1,223	-1,273	484	1,757	50	1,152	1,102
5.1.1	1,200,464	566,223	634,241	-0.130%	-1,566	-1,534	470	2,004	-32	1,074	1,106

12月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平24.12	25.12	26.12	27.12	28.12	29.12	30.12	令元.12.	2.12	3.12	4.12
自然 動態	出生者数	742	738	680	724	666	674	595	553	513	473	470
	死亡者数	1,549	1,494	1,525	1,506	1,485	1,505	1,493	1,571	1,567	1,636	2,004
	自然増減数	-807	-756	-845	-782	-819	-831	-898	-1,018	-1,054	-1,163	-1,534
社会 動態	県外からの 転入者数	959	919	965	1,052	920	944	989	942	1,008	996	1,074
	県外への 転出者数	1,118	1,237	1,152	1,180	1,107	1,080	1,134	1,045	1,031	1,064	1,106
	社会増減数	-159	-318	-187	-128	-187	-136	-145	-103	-23	-68	-32
増減数計		-966	-1,074	-1,032	-910	-1,006	-967	-1,043	-1,121	-1,077	-1,231	-1,566

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

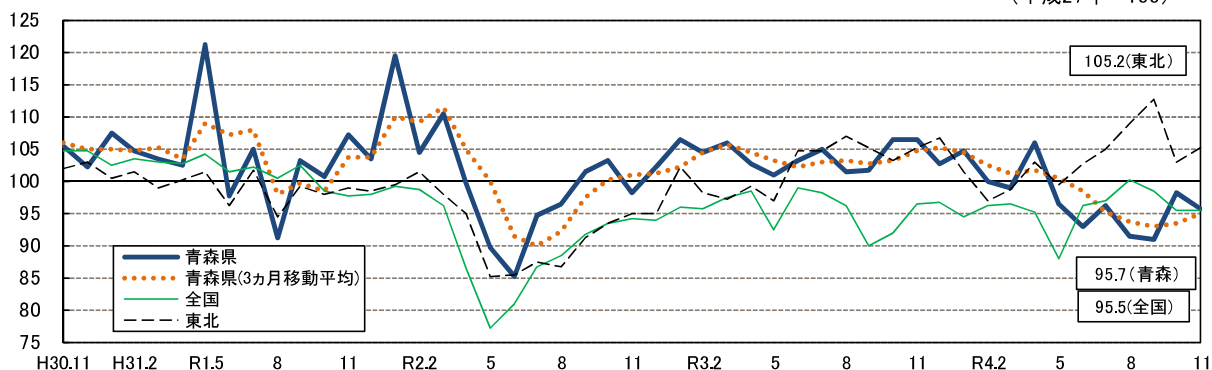
(2-1) 生産動向

令和4年11月の青森県鉱工業生産指数（平成27年=100）は、季節調整済指数が95.7で、前月比2.4%の低下となり、2ヵ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は100.9で、前年同月比9.9%の低下となり、7ヵ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、生産用機械工業、食料品工業等が上昇に寄与した一方、電気機械工業、電子部品・デバイス工業、金属製品工業等が低下し、鉱工業全体では2.4%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年=100）



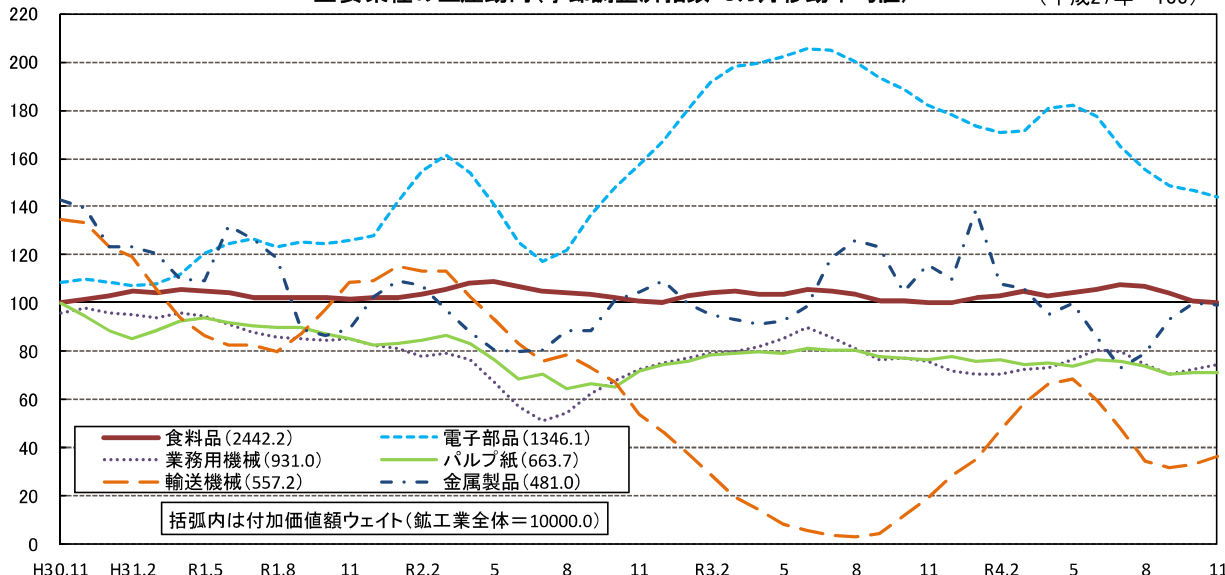
◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -2.4%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	71.0	159.0	電気機械工業	-32.7	-193.3
生産用機械工業	133.5	142.6	電子部品・デバイス工業	-10.6	-154.1
食料品工業	3.0	49.8	金属製品工業	-19.7	-79.1
木材・木製品工業	80.6	48.9	業務用機械工業	-7.2	-36.6
その他製品工業	59.2	21.4	印刷業	-15.9	-31.0

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大ききで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

（平成27年=100）



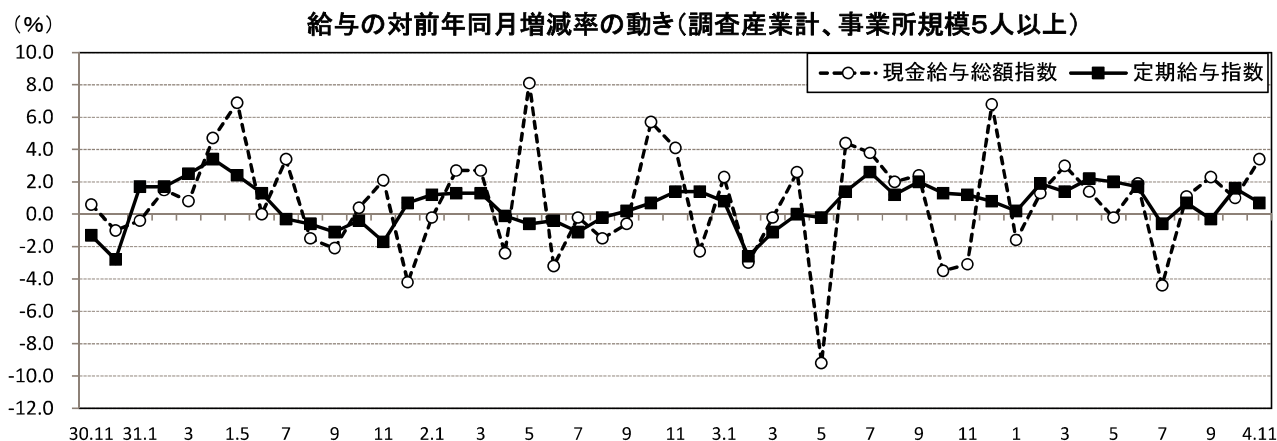
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和4年11月の定期給与は228,364円で、定期給与指数（令和2年=100）では102.7となり、前年同月比0.7%増と2カ月連続の増（現金給与総額253,051円、現金給与総額指数96.8、前年同月比3.4%増）となった。

総実労働時間は147.8時間で、総実労働時間指数は100.3となり、前年同月比2.1%減と11カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は9.1時間で、所定外労働時間指数は96.8となり、前年同月比3.5%減と6カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

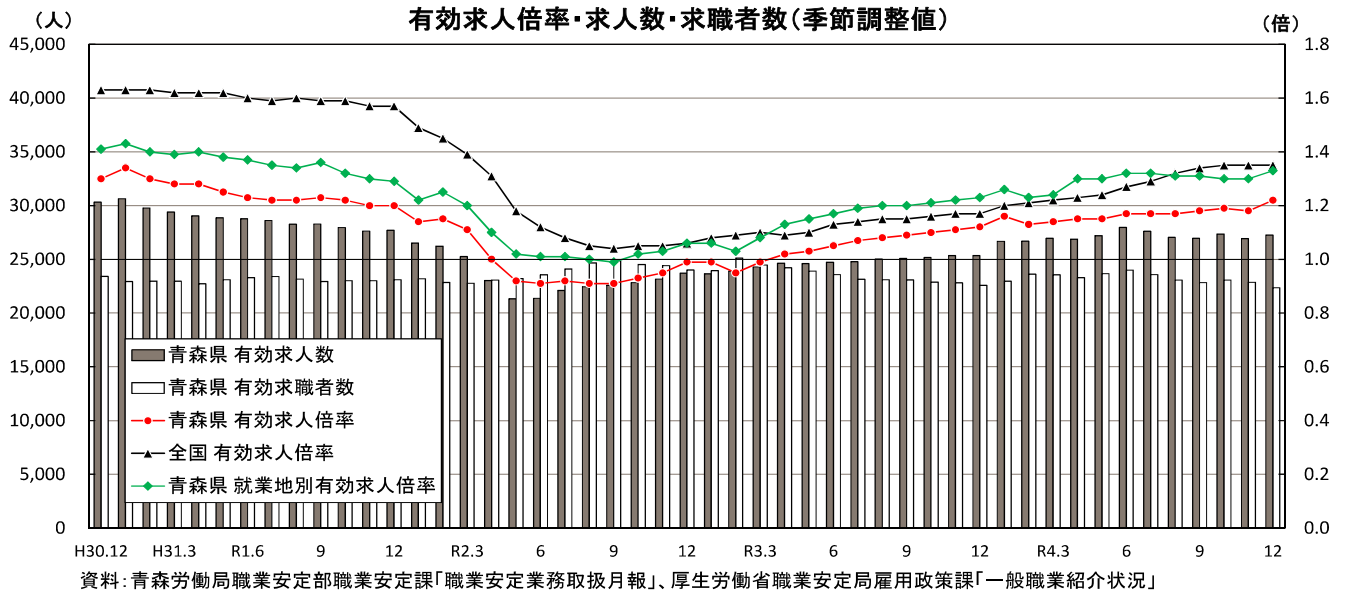
給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実 数		指数(R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	253,051 円	283,895 円	96.8	89.2	3.4 %	0.5 %
定期給与	228,364 円	269,116 円	102.7	102.6	0.7 %	1.8 %
特別給与	24,687 円	14,779 円	—	—	—	-19.2 %
総実労働時間	147.8 時間	139.1 時間	100.3	103.0	-2.1 %	-0.2 %
所定内労働時間	138.7 時間	128.6 時間	100.5	102.1	-2.0 %	-0.5 %
所定外労働時間	9.1 時間	10.5 時間	96.8	114.1	-3.5 %	2.7 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂しています。

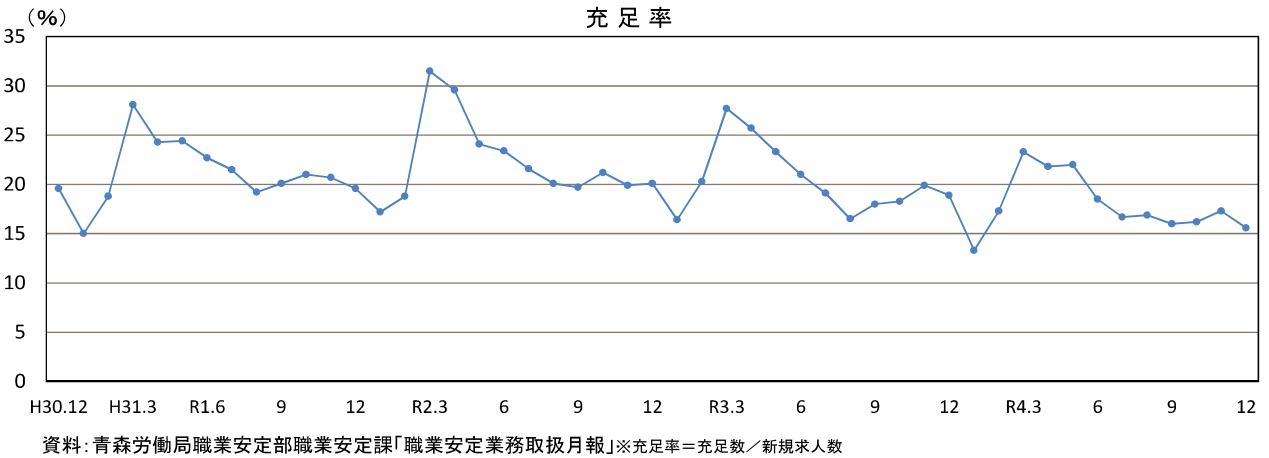
(2-2-2) 有効求人倍率

令和4年12月の有効求人倍率(季節調整値)は1.22倍となり、21カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.33倍となった。



(参考) 充足率(新規学卒者を除きパートタイムを含む)

令和4年12月の充足率は15.6%で、前年同月を3.3ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和4年12月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が105.0となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ4.3%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は104.8となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ4.2%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.2となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ3.5%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ4.3%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

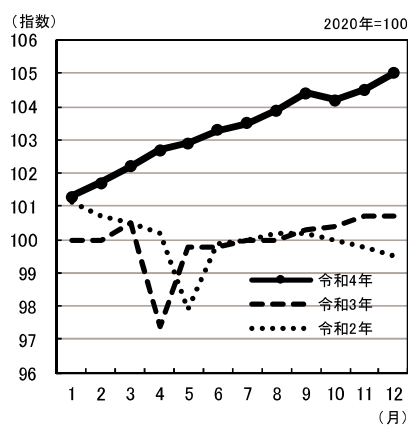


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

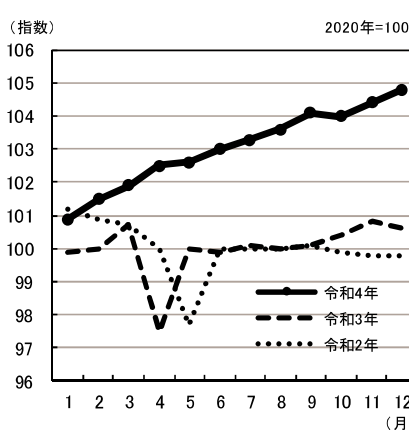
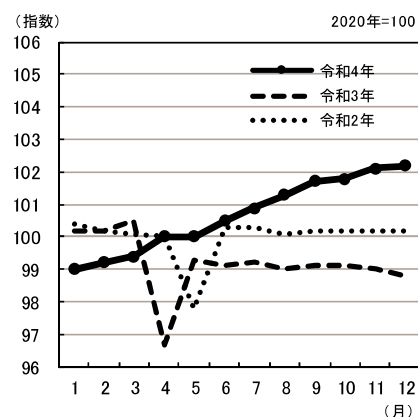


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服	保健医療	交通・通信	教育	娯楽	養老	諸雑費
当月指数	105.0	104.8	102.2	100.1	108.5	109.7	102.9	123.4	106.3	103.4	99.0	93.8	99.3	100.4	103.6	
前月比(%)	0.5	0.4	0.2	0.0	0.9	1.7	0.0	2.2	▲0.1	▲1.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	
寄与度	—	0.40	0.13	▲0.03	0.25	0.08	0.00	0.25	0.00	▲0.06	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	
前年同月比(%)	4.3	4.2	3.5	2.1	7.1	6.1	2.2	8.7	5.9	5.2	0.2	2.4	0.2	0.3	1.9	
寄与度	—	3.99	2.94	1.33	1.99	0.29	0.48	0.98	0.23	0.16	0.01	0.31	0.00	0.02	0.11	

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

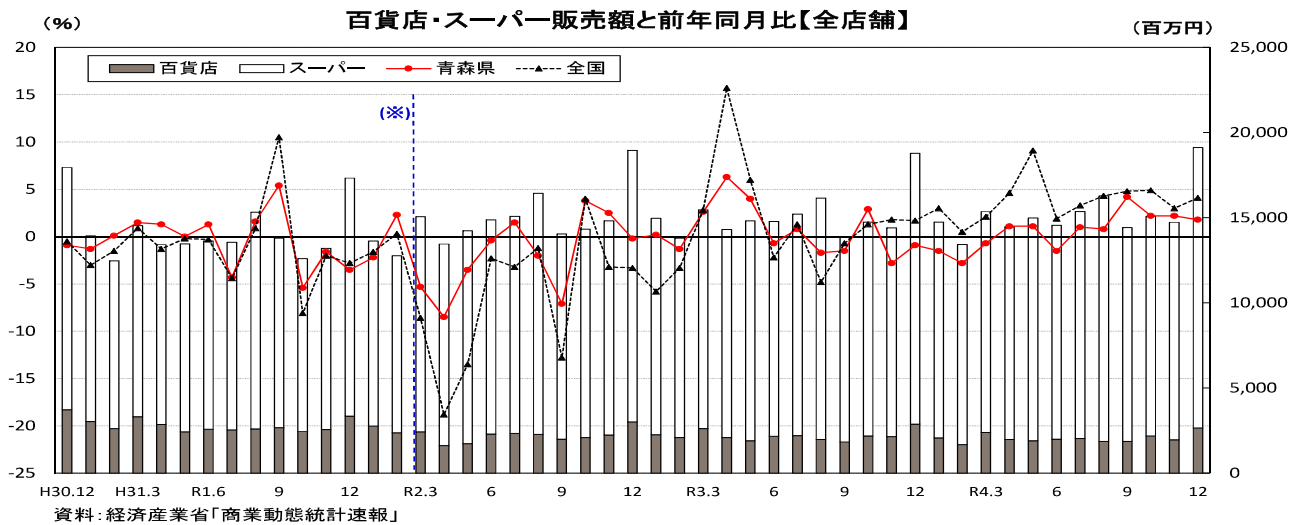
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

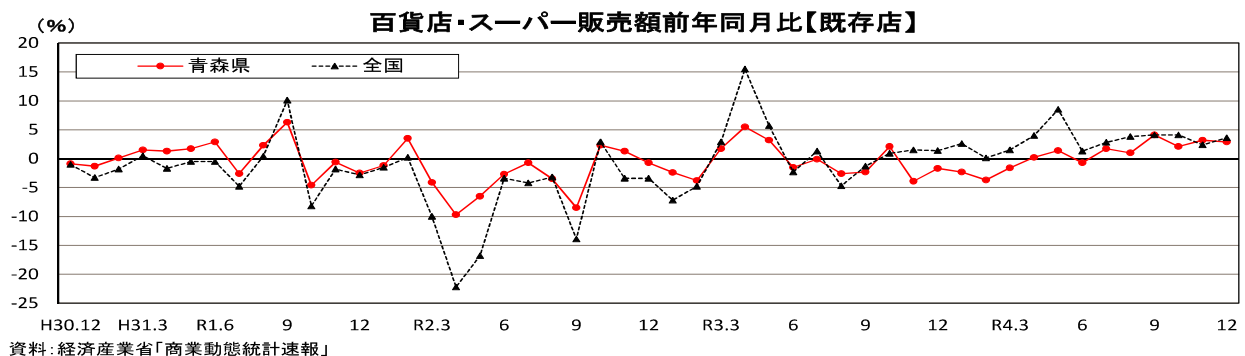
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

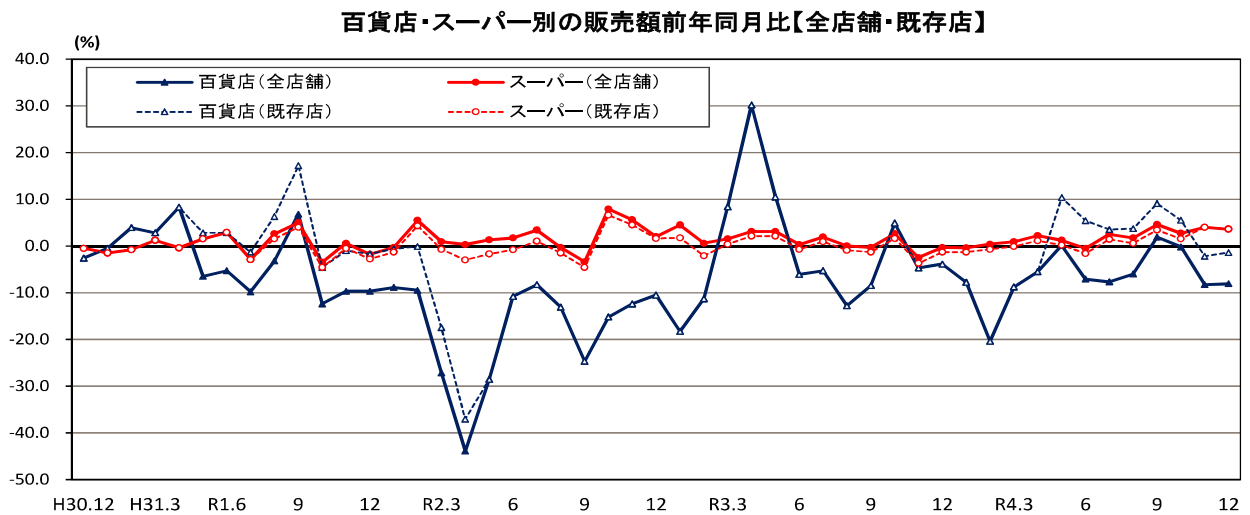
令和4年12月の百貨店・スーパー販売額は、191億円で全店舗ベースが前年同月比1.8%増(令和元年同月比0.7%増)となり、6カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.9%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。



※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

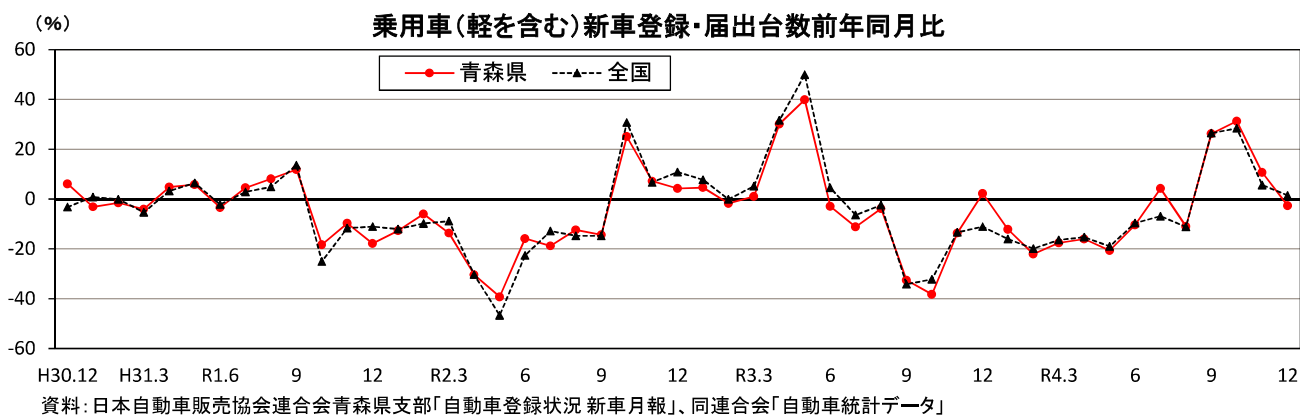


※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であつて、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であつて、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となつていない事業所を除く。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



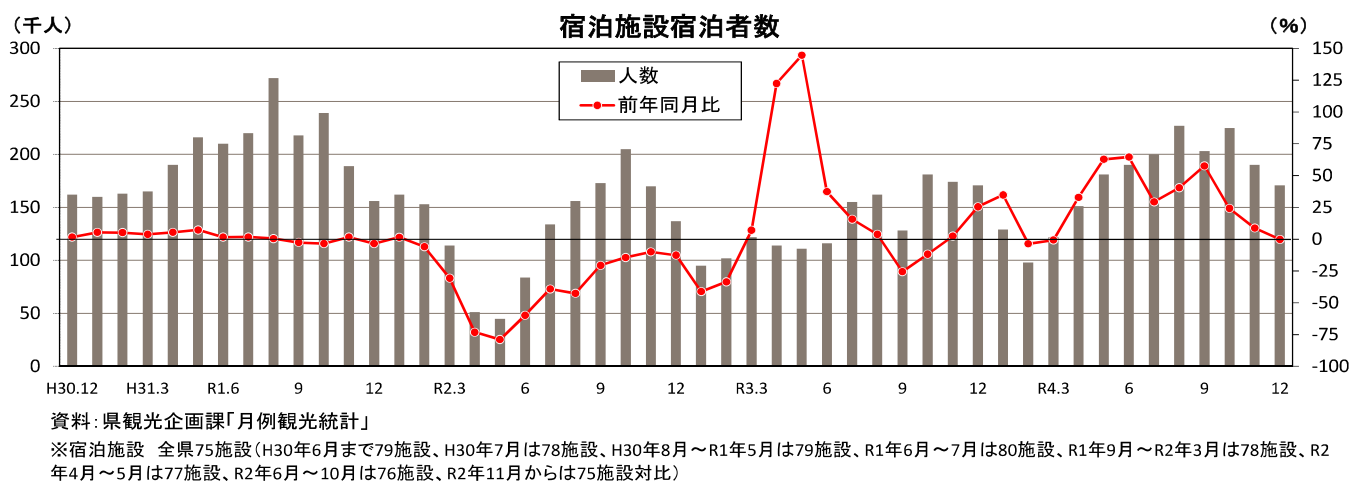
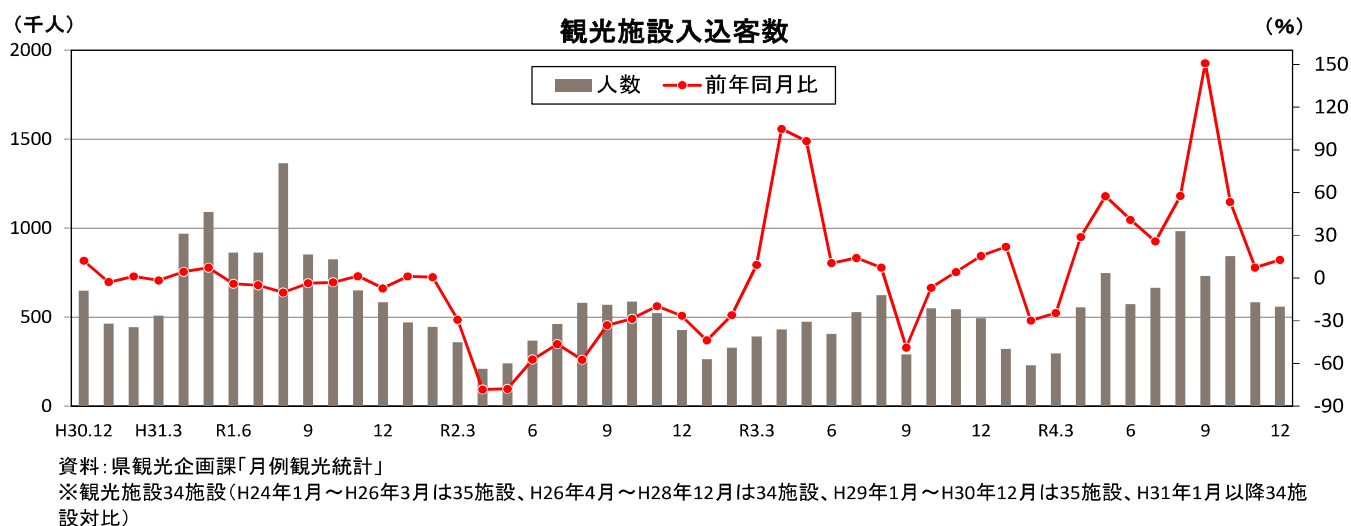
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和4年12月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は、2,531台で、前年同月比2.7%減(令和元年同月比3.7%増)となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。普通車及び小型車が減少したことによる。



(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

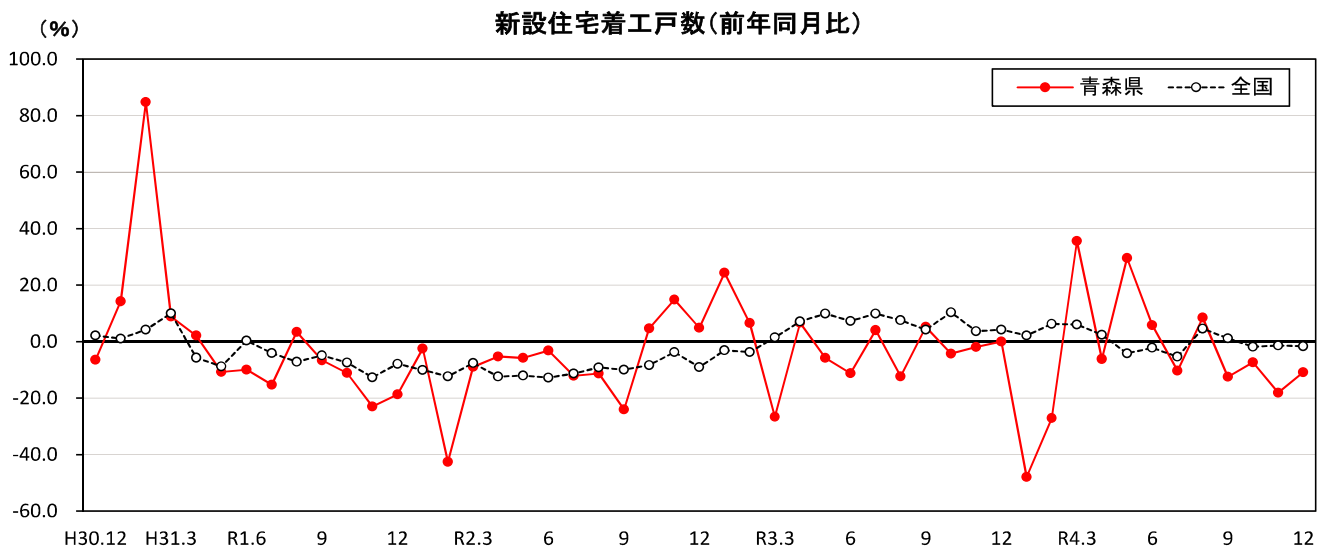
令和4年12月の主な観光施設の観光入込客数は、55万9千人で前年同月比12.8%増(令和元年同月比4.3%減)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、17万1千人で前年同月比0.2%減(令和元年同月比9.4%増)となった。観光入込客数は9カ月連続で前年同月を上回り、宿泊者数は9カ月ぶりに前年同月を下回った。



(2-5) 建設

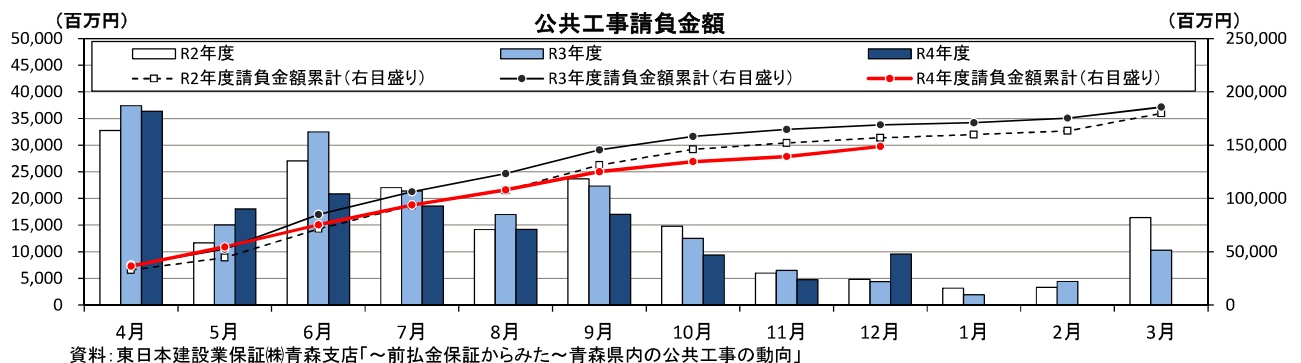
(2-5-1) 住宅建設

令和4年12月の新設住宅着工戸数は386戸で、前年同月比10.9%減となった。持家、貸家、給与住宅、分譲住宅のいずれも減少したことによる。



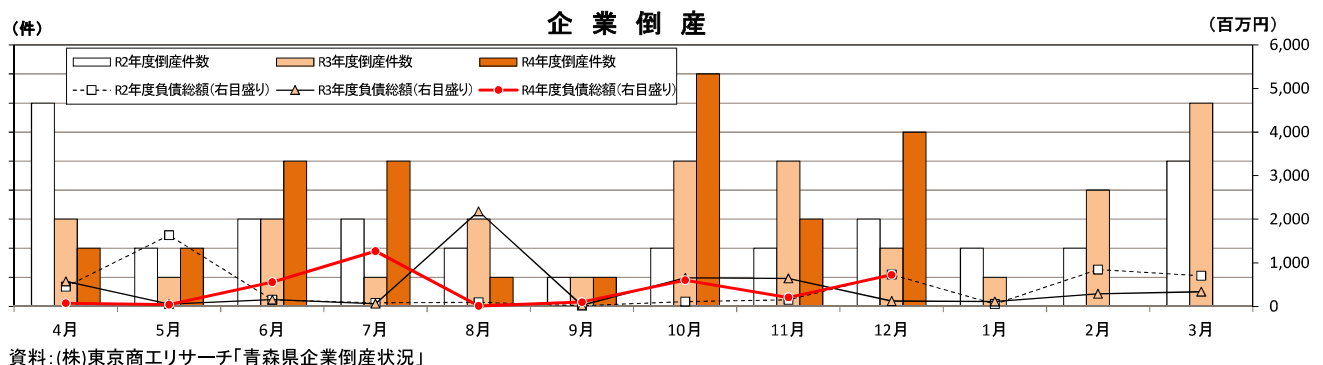
(2-5-2) 公共事業

令和4年12月の公共工事請負金額は95億9,300万円の前年同月比118.4%増となり、7カ月ぶりに前年同月を上回った。



(2-6) 企業倒産

令和4年12月の企業倒産は、件数は6件で前年同月比200.0%増となった。負債総額は7億2,300万円の前年同月比507.6%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

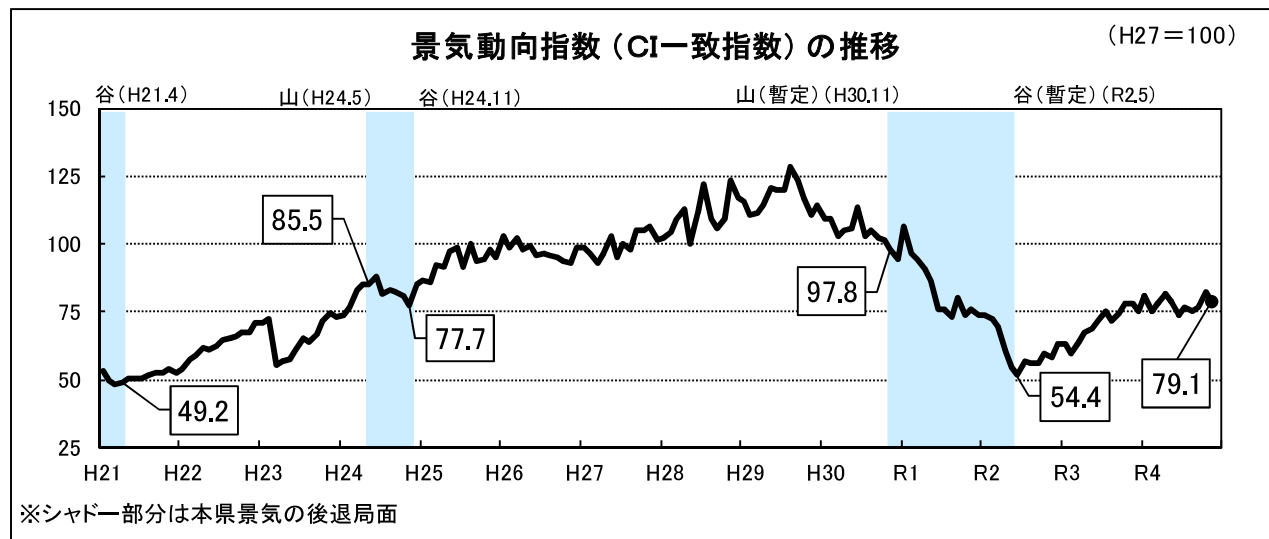
令和4年11月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数112.2、一致指数79.1、遅行指数93.3となった。

先行指数は、前月を8.5ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を3.4ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を1.8ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した。

11月の一致指数は、流通、雇用、生産関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	2.37	2カ月ぶり	乗用車新車登録届出台数	-5.26	3カ月ぶり
日経商品指数（42種）	0.85	8カ月ぶり	中小企業景況DI	-4.99	3カ月ぶり
			生産財生産指数	-1.03	3カ月ぶり
			建築着工床面積	-0.24	3カ月連続
			新設住宅着工床面積	-0.18	2カ月ぶり
			企業倒産件数（逆サイクル）	-0.01	2カ月連続
一致系列					
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.34	2カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-1.29	2カ月ぶり
所定外労働時間指数（全産業）	0.11	3カ月連続	有効求人倍率（全数）	-1.05	3カ月ぶり
			投資財生産指数	-0.91	3カ月ぶり
			鉱工業生産指数	-0.59	2カ月ぶり
遅行系列					
県内金融機関貸出残高	0.78	6カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-1.09	3カ月ぶり
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.15	3カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-1.01	5カ月ぶり
			りんご消費地市場価格	-0.49	3カ月ぶり
			青森市消費者物価指数（総合）	-0.02	2カ月連続
			公共工事請負金額	-0.02	4カ月連続
(参考) 青森県景気動向指数（DI）					
先行指数	37.5%	（6カ月ぶりに50%を下回った）			
一致指数	66.7%	（2カ月連続で50%を上回った）			
遅行指数	71.4%	（2カ月連続で50%を上回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (令和5年1月期)

現状判断DIは、依然として続いている原油、原材料、光熱費の価格高騰や、相次ぐ各種商品の値上げによる購買意欲の低下、消費活動の停滞を懸念する声が多くみられ、前期比4.5ポイント低下の48.3となった。

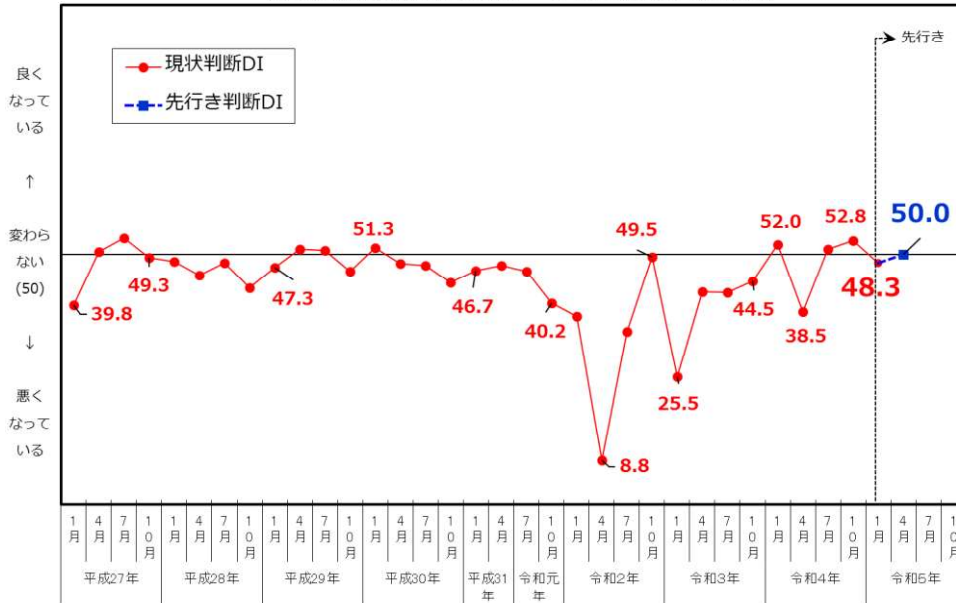
先行き判断DIは、依然として続く原油、原材料、光熱費等の価格高騰や物価上昇の影響で節約志向となり経済が停滞する等の声があったものの、全国旅行支援による冬季観光への動きや国際線の就航再開によるインバウンドの影響を期待する声があり、現状判断DIと比較して1.7ポイント上昇の50.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50と同水準となった。

(調査期間 令和5年1月4日～1月23日 回答率 100%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント低下、「やや良くなっている」が3.0ポイント低下、「変わらない」が2.0ポイント低下、「やや悪くなっている」が3.0ポイント上昇、「悪くなっている」が4.0ポイント上昇となった。全体では48.3となり、前期から4.5ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。判断理由では、3カ月前と比べて、全国旅行支援や青森県おでかけキャンペーン等の影響により旅行需要が増し、人の動きが活発になっている、ウィズコロナの動きがみられるようになってきたといった声がある一方で、依然として続いている原油、原材料、光熱費の価格高騰や、相次ぐ各種商品の値上げによる購買意欲の低下、消費活動の停滞を懸念する声が多くみられた。

今期調査の現状判断DIと比べて、東青、津軽、下北で低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。

● 3カ月後の景気先行き判断

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が同水準、「やや良くなる」が6.0ポイント低下、「変わらない」が16.0ポイント上昇、「やや悪くなる」が7.0ポイント低下、「悪くなる」が3.0ポイント低下となった。全体では50.0となり、今期調査の現状判断DIと比べて1.7ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50と同水準となった。判断理由では、全国旅行支援による冬季観光への動きや国際線の就航再開によるインバウンドの影響を期待する声がある一方で、依然として続く原油、原材料、光熱費等の価格高騰や物価上昇の影響で節約志向となり経済が停滞する、消費動向が好転する要素がないといった声があった。

今期調査の現状判断DIと比べて、東青で低下し、東青、下北で景気の横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	行動制限緩和により旅行や帰郷などの動きが活発になった。海外渡航については団体ツアーでも集客ができるようになってきた。(旅行代理店=県南)
○	コロナへの人々の対応も落ち着きを見せ、県外からの来店客も含め、人の動きが多く活発になって、経済が回り始めているように感じる。(商店街=東青)
○	おでかけキャンペーンもあり、人の動きが活発になってきた。(旅行代理店=東青)
○	全国支援割引等により、観光のお客が増えている。支援クーポンは、青森県では、ほとんどが飲食店での利用となっている為来店客はかなりありました。(レストラン=津軽)
○	新型コロナをあまり気にしなくなって街に出るようになってきた。毎度未で、人の動きや商品の動きなど活発になっている。(タクシー=県南)
○	全国旅行割等の実施により、人流が増えて、観光、宿泊、飲食業の売上げが上昇してきている為。(経営コンサルタント=県南)
□	物価上昇による買い控え等により景気が停滞していく。(乗用車販売=津軽)
□	悪いままで変わっていないと感じる。コスト上昇が経営を圧迫し、今後更に負担増になる。(百貨店・スーパー=県南)
□	値上げに慣れてきたので致し方ないと感じ購入する状況でしたが水道光熱費の値上げがかなり響いてきたようで購買意欲が落ちているのを実感しています。(食料品製造=東青)
□	ウィズコロナでイベント等の復活は見られるが物価高で良くも悪くもない状態。(新聞社求人広告=県南)
△	インフレの影響が日を追って重なり生活費が苦しくなっている。(美容院=津軽)
△	新型コロナの流行が続き、諸物価高騰が収益を圧迫している。(都市型ホテル=津軽)
△	資材高騰と人手不足で深刻な影響が出てきています。(建設=東青)
△	相次ぐ値上げの反動で、数字は伸びているが、それは値上げ分。利益が値上げ前より取れていない。(食料品製造=下北)
×	物価高は深刻化しており、経済活動が鈍っていると感じている。(設計事務所=県南)
×	止まらない物価上昇、燃料価格の高止まり、社会情勢不安で消費意欲がますます冷え込んでいる。(新聞社求人広告=東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	段階的なコロナによる種々の規制緩和、青森空港国際線の就航再開によりインバウンドの需要が期待できる。春には桜シーズンの旅行者も増えると予想できるため。(都市型ホテル=東青)
○	懸念としては、新型コロナの再拡大や物価高の不透明さなどがあるが、行き交う人々の表情や話しぶりは、明るい方向に向かってきているように感じる。(商店街=東青)
○	希望的観測ですがコロナの減速、円安の回復、インバウンドの増等。(一般小売店=県南)
○	半導体不足・部品調達遅れが徐々に回復傾向にあり、自動車の供給も兆しが見えはじめて来ている。(乗用車販売=県南)
○	将来賃金UPが進むと所得が増え大部分貯蓄に向けられたお金が支出の方へ幾分向けられ口経済が回転する可能性あり。(百貨店・スーパー=下北)
□	消費税など、その他税金が変動するので、安心した生活が出来ない。(今後の予想として)(百貨店・スーパー=津軽)
□	物価高、電気代などの値上げなどで買い物に対し慎重になる状況が続くと予測します。(家電量販店=県南)
□	コロナ感染も落ち着き、元通りの生活に近づいているので良くなっていると思いますが、物価が高騰しているので財布の紐も固くなっていると思うので一進一退といったところではないでしょうか？(ガソリンスタンド=下北)
□	中小企業では賃金上昇も値上げを補えるほどできません。(食料品製造=東青)
□	欧州の景気悪化の影響が輸出品に出始めている。日本国内は増税であり、個人も企業も苦しくなるのが目に見えている。(電気機械製造=県南)
□	物価高騰見込みもあり、大きな変化はなさそう。(人材派遣=東青)
△	電気代やガソリン、食料品も値上げしたので節約するはず。(商店街=津軽)
△	コロナ・エネルギー価格の上昇・原材料の高騰など先行き不透明。(コンビニ=県南)
△	燃料・原材料価格の高騰、米国の景気減速に伴う我が国の輸出減、中国の供給力の制約、我が国の金融緩和の修正等の下振れ要因は高まると予測される。(経営コンサルタント=東青)
×	相変わらず諸物価の上昇は止まらずひたすら生活防衛といったことを中心に物事を考える方も増え経済の廻りがよんでいる状況がそのまま継続すると予測されることと、コロナウイルスの変化型がどこまで人々の暮らしに影響を与えるのかまだ現段階では想像がつかない故、現状に比較して好転するとは考えられない。(タクシー=東青)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」